

10月16日（日）

小石川マルシェが開催され、

跡見学園女子大学の学生が参加しました。



（マルシェの会場）



（ お店の様子）

1)「小石川マルシェ」ってなに？

小石川マルシェは、単なる直売所ではなく、マルシェを舞台に様々な人々の交流が生まれ、賑わいが生まれ、小石川の地域活性化のきっかけになるイベントを目指しているものです。（地元の事業者や住民などで構成される非営利団体 小石川活性化研究会が主催しています）



2)「小石川マルシェ」って、どんな経緯ではじめたのでしょうか？

小石川マルシェは、地元の若手を中心にして結成された「小石川活性化研究会」によって企画が進められ、「小石川マルシェ実行委員会」が主催している、地元密着型のイベントです。また、マルシェを舞台にして様々な交流が生み出されることも意図しています。

3)参加している人はどんな人でしょうか？

小石川に関わりのある方々が出店しているのはもちろん、小石川との交流のある地域・団体も多く出店しています。また、イベントには、小石川はもちろん文京区内から、多くの住民の方に参加頂いています。この活動に、地域貢献、および学生の教育に資する目的で、コミュニティデザイン学科教員の監修のもと、地域交流センターとして跡見学園女子大学も参加しています。



4) 参加することによどのような意義があるのでしょうか？

とかくつながりが薄くなりがちな都心地域で交流を目的に行われるこのイベントは、これからのコミュニティを考えるうえで、大変意義が深い活動と考えています。特に、コミュニティデザインを専攻する学生にとっては、都心のコミュニティデザインに実際に関わることができる、貴重な機会になっていると思います。

5) 参加した学生の声

- コミュニティデザイン学科の学生みんなと協力して準備のお手伝いをしたり、ジャガイモを全部売ることができたりしたのでよかったです。また、来ていただいたお客様に笑顔になってもらえたのとても嬉しく感じました。また機会があればぜひ参加させていただきたいと思っています。
- 今回初めて小石川マルシェに参加させていただき、地域の温かさを感じました。準備の段階では、それぞれの出展団体さんと話す機会があり、私たちが質問すると丁寧に教えて下さり、こっそり試食などもさせていただきました。
- はじめはどのように声をかけたらよいか、アピールポイントなどをなかなか言えませんでした。しかし、時間がたつにつれて自分から声をかけて群馬県長野原町の話や福祉センターの話をつなぎ交ぜながら説明することができました。お客さんも皆さん優しい方ばかりでした。立ち止まって話を聞いて下さり、たくさん購入して頂きうれしかったです。
- 福祉センターから来た方もたくさん会話をすることができました。普段の生活ではなかなか関わることがないので私からたくさん話しかけるととても優しく、楽しそうに話しをしてくださいました。



6) 当日のあれこれ！

- 長野原町のジャガイモは好評で、販売開始前の準備段階から声をかけて下さり、購入頂いたお客様もいらっしゃいました。
- お客様の中にはジャガイモがたくさん欲しいといって何袋も購入されるお客様もいらっしゃいましたが、一方でたくさんはいらないから小分けしてほしいという要望もありました。一人暮らしなど高齢者の実態を垣間見る思いでした。
- 福祉センターは前回の倍の120個の蒸しパンをご用意されました。また長野原町のジャガイモも100kgと最初は売り切れるか心配でしたが、いずれもあっという間に売り切れ、どちらも販売開始から約2時間の11時過ぎには完売となりました。
- 文京キャンパスが近くにあることから、大学に縁故のいらっしゃる方も多く、いろいろと大学の様子など聞かれていくお客様も多かったです。



7) 今回地域協定を結んだ群馬県長野原町のジャガイモを販売！ついでに宣伝もしました。

○長野原町は、群馬県北西部の山間に位置する人口 6000 人弱の町です。高原野菜や酪農等、農業が盛んで、今回のジャガイモ(男爵)もその産物の1つです。ハッ場ダムの問題で過疎化が進みましたが、東京圏からの移住者も多く、また戦前からの別荘地(北軽井沢地区)もあるなど、さまざまな「顔」を持っています。跡見学園女子大学では今年度、長野原町と協定を結び、相互の交流を始めたところです。



8) 売り上げも寄付しました。

○今回のイベントの売り上げは、長野原町と文京区社会福祉協議会に寄付しました。

9) 次回ありますか？次回参加するにはどうしたらいいですか？

○イベントは、春(5月)と秋(10月)の年に2回予定しています。

来年、春は4月、秋は9月頃、ポータルを通じて案内と募集をしていきますので、ふるってご応募下さいね。

(終)